

# 政治学概論 I

## (6) 市場・共同体・政府

# 三者の機能と政治の役割

市場（マーケット）＝自由な取引・売り買いの世界

※一定のルールの下で、対価を支払って物品・サービスを調達

共同体（コミュニティ）＝無償の助け合いの世界

※対価を伴わない相互扶助、家族的・地縁的な集団が多い

政府（ガバメント）＝公権力を用いた再配分

※徴税と法・政策執行によって、市場や共同体で解決できない問題を是正

政治の役割は、政府機能の遂行だけではない

# 自助・共助・公助

■自助＝市場競争での努力、自己責任の世界

■共助＝何らかのコミュニティを前提にした助け合い

■公助＝政府・地方自治体の公権力による支援

「自助」「公助」「共助」の適切な範囲は？

政府が「自助」を促すのは妥当なことか？

いわゆる「社会的弱者」にも最大限の努力を促している？

# 政府の存在理由は何か

本来「公助」のために存在する政府・政治家・国家

夜警国家・小さな政府 ⇔ 福祉国家・大きな政府  
⇒（アダム・スミス「神の見えざる手」）

自由主義と民主主義の結合（トクヴィル、J.S.ミル）

「自由で平等な個人が作る民主主義」への道

自由と平等はどこまで両立できるか？

# 政府機能の拡大と限界

「福祉国家」の定着

⇒政府に求められる「公助」公的福祉が増えてゆく  
一方、共同体機能「共助」は低下してゆく

「増税」が政治的に困難である（選挙で負ける）  
原資が足りないので「自助」を強調する

低成長・福祉国家の行き詰まり ⇒ 「新自由主義」  
市場（自助）重視・規制緩和